

株式会社ヒラバヤシ

■平成25年度テーマ

有機溶剤使用ゼロ洗浄設備開発による低負荷環境作業の実現

■平成25年度概要

弊社では一部切削加工部品の脱脂・洗浄に、有機溶剤トリクロロエチレンを使用している。トリクロロエチレンは脱脂性、コスト面で優れているが、作業環境、自然環境に悪影響を与える側面を持つ。本事業では有機溶剤使用ゼロの洗浄機を新規開発することで、作業環境改善を図るとともに、自然環境を考慮した製品作りを実現する。

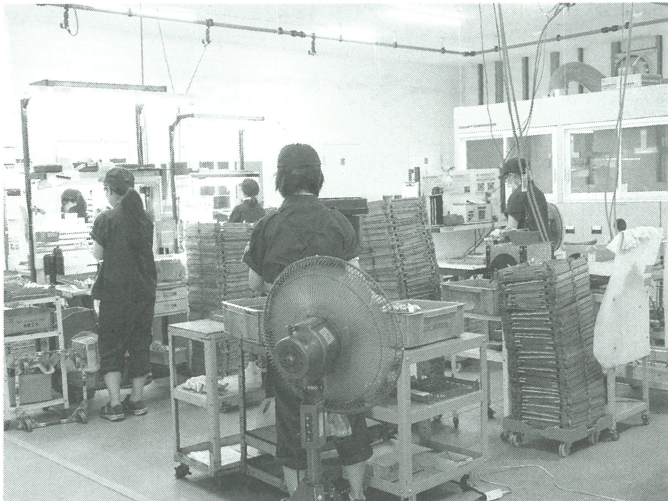
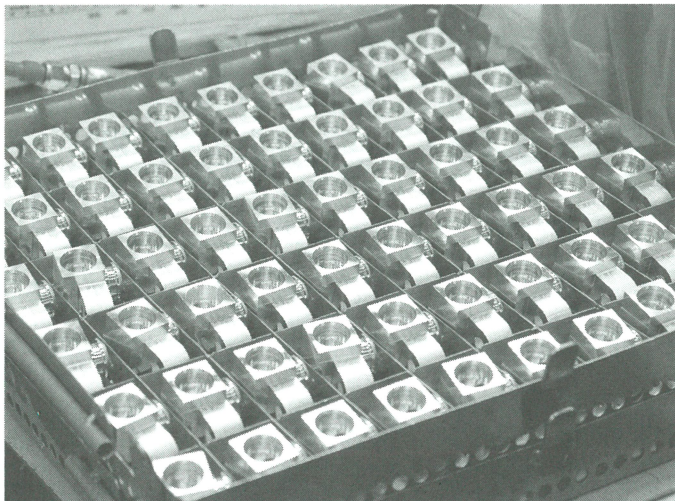
■平成25年度分類

＜対象類型＞ 【ものづくり技術】
製造環境
＜事業類型＞ 一般型
試作開発＋設備投資

■事業の概要と成果

洗浄工程で使用している洗浄機を新規開発することで、現在使用している有機溶剤「トリクロロエチレン」の使用を廃止し、作業環境の改善及び自然環境への負荷低減の取組を実施した。

洗浄設備の開発及び導入は平成27年3月26日に完了し、有機溶剤を使用せず、且つ、脱脂精度を落とすことなく洗浄できることを確認した。今後は有機溶剤の使用量の監視を行う。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社ヒラバヤシ（安曇野市）

有機溶剤使用ゼロ洗浄設備の導入により、
環境問題をクリアし、生産性の向上を実現。

カンバン方式での管理体制確立

ヒラバヤシは1939（昭和14）年東京で創業し、戦時中に明科町（現・安曇野市明科）に疎開。以降、農業機械などの部品製造を手がけてきました。

3代目の平林正吉社長が社長に就任したのは80年。それ以降の事業展開は目覚ましく、85年には新たな取引先を得て、自動車エアコンの部品製造に進出しました。「品質、納期、価格などにおいてカンバン方式の考え方が根付き、現在の会社の土台ができました」。

87年、新たに造成された明科工場団地に本社工場を新築移転。あわせて現社名に変更しました。94年には第2工場を建設し、自動車エアコン部品の取引増大に対応。品質強化をめざした製造体制づくりにも積極的に取り組み、ISO9001（99年）、ISO14001（2001年）の認証取得にも先がけて取り組みました。

さらにナックルステアリング、キャリアといった自動車の足回り部品を手がけ、大手自動車メーカーに供給。サイズの小さいものから大きいもの、大量生産品から少量品と、さまざまな部品製造に対応しています。

「足回りは安全の基本中の基本。その重要保安部品の製造は、品質への信頼であり、当社のカンバン方式での管理体制が認められていると自負しています」

04年には中国天津に自動車エアコン部品の製造に特化した現地企業を設立。中国に進出している自動車エアコンメーカー各社に製品を供給し、品質の高さで評価されています。

有機溶剤の排除と洗浄機の生産性向上

同社は15年3月、ものづくり補助金を活用し、有機溶剤を使用しない洗浄設備を導入。それに合わせて第3工場を建設しました。

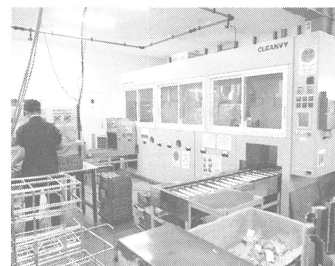
環境への配慮から、国では製造工程での有機溶剤全廃の方向。

しかし洗浄工程はそれ自体が付加価値を生むものではなく、新たな投資の回収も難しいため、中小企業ではなかなか踏み出せないのが実情です。

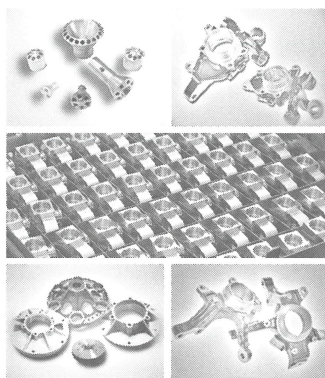
同社ではこの問題をものづくり補助金の活用によってクリアしようと考えました。製造環境改善への取り組みとして申請し採択。ランニングコストが比較的安い炭化水素を洗浄液に使用する洗浄機を導入しました。それでもトリクロロエチレンの2倍以上割高なのが難点。しかし、同社では洗浄工程での搬送・乾燥・排出の一連の工程を自動化し、加工タクトの付加価値を上げることで生産性向上を図りました。

申請を担当した平林大季管理部長は今回の補助金活用のメリットを次のように話します。「今回のテーマは、有機溶剤の排除と洗浄機を生産性向上。コストアップを考えると補助金活用は大きなメリットでした。洗浄機を入れた新工場は新しい製品への対応スペースも確保でき、洗浄、製造ど

ちらも余力が生まれ、今後の仕事の幅が広がる。そんなシナリオを描きましたが、その通りになり満足しています」。



導入した有機溶剤使用ゼロ洗浄設備



自動車関連の製品群



中国工場



株式会社ヒラバヤシ

代表者 代表取締役社長 平林正吉
創業 1939（昭和14）年4月
資本金 1,000万円 従業員数 21人
本社 安曇野市明科七貴6043-18

TEL.0263-62-2058 FAX.0263-62-5619

事業内容 NC旋盤、マシニングセンターによる金属
切削加工

